

親和会会報

向坊隆書

23号

2009.10



親和会、本郷に帰る!

お待ちどお様です。年に一度の同窓生懇親の場、親和会総会・懇親会のご案内です。この会は永らく外部の会場を借りて開催されて

いましたが、今年は本郷キャンパス内で開かれます。今、本郷キャンパスは創立130周年記念事業により「知のプロムナード」と呼ばれる散歩道が綺麗に整備

されています。少し早めに到着し、深まりゆく秋の本郷キャンパスを楽しんでは如何でしょうか? この会は先輩、後輩が一堂に会し懇親を深める年に一度のチャンスです。懐かしい思い出話に花を

咲かせるとともに近況を語り合い、先輩後輩を交えた幅広い意見交換が楽しめます。参加しなければ始まりません。皆様お気軽においで

ください。

右：旧態依然の5号館 中：空中楼阁新2号館

左上・左中上：「知のプロムナード」

左中下：きれいになった三四郎池

左下：夕暮れの安田講堂

第158回親和会 総会・懇親会開催

日時：10月17日(土)
16:00~18:00

会費：前納 8,000円
(同封の振込用紙をご利用下さい)

場所：東京大学本郷キャンパス
山上会館 1階 ラウンジ

当日 10,000円
☆昭和31年以前ご卒業 前納 4,000円
当日 5,000円

運営幹事：昭和59年卒・平成6年卒

参加者情報：URL

<http://www.chem.t.u-tokyo.ac.jp/shinna/>

右・左下：
学内も街中並みになりました

右下：山上会館エントランス

左上：昔と変わらない銀杏メトロ入り口



リレー・エッセイ ②〇

五号館時代の出来事

岩並 清隆 (昭和56年卒)



いつも本会報のお世話をいただいております。三年前直接ご指導を受けたM教授から直々のお電話をいただき、ビジネスのネタでもいただけるかと期待したところ、「親和会報に穴が開きそうだ」とおっしゃるので埋め草を決意しました。

(一) 暑い夏

三十年前、四年生の夏は猛暑であった。九州大学での七大会(バレーボール)に向かうと、現地では湯水で水道の使用が制限されていた。飲み水はポリタンク、風呂は時間制限。もっとも大変だったのはユニフォームの洗濯(もちろん下級生の仕事)だったかもしれない。大学院入試を控えていた私を含む理系の四年生三人は、参考書をスツーカーに詰め込んで持ち込み、夜は三人部屋で受験勉強をした。私を持ち込んだのはモリソン・ポイドの有機化学全三巻。当然ながら数泊の間に三巻が必要になるわけがないが、お守りにはなったようだ。

幸いなことに(実力通り、と言いた

い)七大会には優勝し、大学院も三人揃って合格した。私以外の二人は現在農学部教授である。

(二) タバコ

信じられないかもしれないが、三十年前は実験室でタバコを吸っている人もいた。バレーボールの現役中は喫煙を忌避していたが、卒論の焦りと共に喫煙者となった。誘い込んだのは二人の悪い先輩であった。ある日実験が息ついたとき、先輩のOさんが「まあ一服」とロングピースを差し出す。むせながら机に帰ると、隣のMさんが「まあ一服」とハイライトを差し出す。この後、私はもう少しセンスのよいセブンスターを愛煙するようになった。

(三) スポーツ大会

大学院時代を通じて、バレーボール、野球、バスケットボールなどいつも何かしら大会が開催されていたような気がする。得意のバレーボールは現在工学部十号館の五号館よりの場所にあった外の



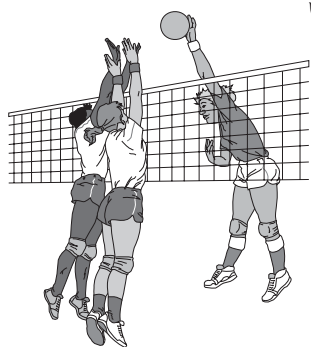
コートで開催された(写真)。一年先輩のTさん・一年後輩のY君は私よりも一回り身体が大きく頼りになるエースで、Oさん・Mさん・K君と筆者のチームは五号館史上最強ではなかったか(写真)。狭い実験室の梁(高さ三メートル)以上はあったはず)に垂直とびで指のあとをつけたのも懐かしい思い出。その後両方のアキレス腱を断裂し、いまや地面から離れるのは十センチがやっとである。坐骨神経痛をなだめながらまだ月一回程度のバレーボールは続けている。

バスケットボールも外のコートだった。Tさんと味方同士でボールを競り合ってた彼のひじが私の眼窩に衝突し、残念ながら現在も乱視(軽度)の後遺症が残っている。

軟式野球は農学部のグラウンドで。戦果はあまり覚えていないが、四年上のエースと遊びに行った神宮外苑のお祭りでスピードガンでの速球勝負となり、私が勝った事は記憶にある。エースの名誉にかけて球速の測定値は伏せておくことにする。私が登板したときは三振かフォアボールで味方先輩からブライニングの嵐。

(四) 会社選び(誰の?)

大学院受験はのんびりしていたが、就職活動はもつとのんびりしていたかもしれない。大学院二年の初夏、私がリクルートはがきを数社に出しても反応がない。ある日内田教授に呼ばれ



ると、「お前、S化学やA化成にはがきを出したんだって? 断るのに苦労したぞ」と言われ、目を白黒。教授のご指導に従い、N鉱業で社会人の一歩を踏み出した。新規事業の化合物半導体に社内ですべて取り組んだが、モノが出たのは化学屋と金属屋の共同作業だと思っている。物理屋と電気屋は能書きを言うのが仕事だった。

大方事実ですが、言いたい放題はご寛恕ください。

親和会事務局から アンケート結果のご報告

親和会事務局 溝部 裕司

まず全体的なことから申し上げます。現在会報を発送している親和会会員は約6500名ですが、前回の会報送付の際にアンケートを同封して親和会について皆様のご意見をうかがいましたところ、508通のお返事をいただきました。経費節約のため、回答用紙の返送は会員負担でお願いしたこともあり、賛成であれ反対であれ親和会活動に日頃からはつきりしたご意見をお持ちの方や、親和会への積極的支援をお考えの方がお返事を下さったものと思えますので、まずは期待通りの回答数です。

回答者のほぼ6割が60歳以上の会員でした。私自身の経験からも、同期生とのつながりや同窓会といった集まりに関心が向くのは、ある程度歳を取って、昔を懐かしむようになってからの場合が多いと思えます。これも、もつともな結果ではないでしょうか。

私どもは、親和会の最も大事な仕事は卒業生名簿を常に更新し、しっかり管理することと考えています。回答者からも、名簿を管理・発行すること、会員からの要請に応じて必要な同窓生のデータをお知らせすることは、活動内容として高い支持を得ています。また、会報の発行や

親和会総会・懇親会の開催も、続けることに賛成の意見が多数を占めました。意外だったのは、研究室対抗スポーツ大会を主催し優秀チームに賞品を出すことには、積極的な賛成意見が半数以下だったことでしょうか。親和会は財政的に苦しい状況にあることをふまえて、支出を削るならこのことのお考えなのかも知れません。ただ私どもは現在、親和会活動は卒業生会員のためのものばかりでなく、母校への恩返しという意味で現役の学生に對しても行われるべきと考えています。予算が許す限り、昨年開始した学生向けの講演会と併せて、スポーツ大会支援も続けていきたいと思えます。

もし会費値上げをお願いしたらどうしますかという質問に対する回答は、「じゃあ払うのをやめる」とは言わないけれど、その前に納入率アップや経費節約など、他にやるべき事があるのではないかと、というのが多数意見と判断できます。まことにごもつともで、私どももそのように考えています。

先に述べましたとおり、親和会は卒業生名簿を管理し、会員の消息を常に把握し続けることが最重要事項でありますので、会費を払わない方にも会員として在籍し最新の情報を事務局にお伝え下さるようお願いしています。《親和会では、現在の化学・生命系3学科・3専攻およびその前身である学科・専攻の卒業生・修了者および教員在籍者はすべてが会員

です》。

会費は2年に1回、4000円を振り込んでいただいています。納入して下さっているのは、既に何度かお知らせしていますとおり、会員の20%余りです。これを少ないと思う人も、意外に多いなと思う人もいるでしょう。事務局としては、同窓会というものの性質、現在の制度、そして親和会が行っているサービスを考えると、それなりに評価できる数字と思っております、これを大きく増やすことは容易ではないでしょう。ただ、もう少し便利な会費納入法へと変更することを考えています。

経費については、既にぎりぎりのところでやっており、その他はボランティア的支援に頼っているというのが実情ですが、サービス向上につながる経費削減法として、HPの活用を進めたいと思っています。会報の送付は年1回とし、そのかわりHP上に従来の会報でお届けしてきた以上の情報を掲載しようというものです。PCをあまりお使いでない会員の方々にはご不満かとも思いますが、ご了解をいただければと思います。以上、アンケートの結果をいかんなくご報告いたしました。具体的な数字につきましては、親和会HPに掲載いたしますので、ご覧下さい。

親和会ホームページアドレス
<http://www.chem.tu-tokyo.ac.jp/shinna/>

総会議案

《平成20年度会計報告》

収入の部	平成19年度繰越金	3,689,762
	年会費	4,839,480
	利息	5,456
	第157回親和会余剰金	260,375
合 計		8,795,073
支出の部	会報印刷費	465,628
	通信費 (会報送料+郵便料)	761,910
	親和会組織化費	66,000
	大学院親和会支援費	89,656
	事務局運営費	1,388,971
	(経常経費+事務局経費+事務局員費)	
合 計		2,772,165
繰越金		6,022,908

事務局のご案内

〒113-8656
東京都文京区本郷7-3-1
東京大学工学部5号館内
TEL/FAX : 03-5841-7400
E-Mail : shinna@chem.tu-tokyo.ac.jp

事務担当者 近藤 檀 (月～土)

温故知新

滞米中のOBとの交歓雑記

氏平 祐輔 (平成9年退官)



停年の前年に当たる1996年2月から6カ月間、米国のミズーリ大学カンサス校 (UMKC) の

化学科でJean教授と共同研究を行った。テーマは『陽電子消滅によるポリマー中の自由体積決定の標準化』である。私の他、助手の李洪玲 (H9 D修了) さん、DIの伊藤賢志君、M2の内山佳子さんと若林由紀さんでカンサス市に滞在した。同市は、日本との時差は15時間で、『オズの魔法使い』や『竜巻 (トルネード)』で知られる。市の中央を南北にステイトラインと呼ばれる道が走り、東側がミズーリ州、西側がカンサス州である。市内のあちこちにゴルフコースや広い庭を持つ大邸宅が散在する。

私は、約30 km離れたJean教授の息子さんのお宅の2階を借りたが、大学の往復に通る道をいろいろに変え風情を楽しんだ。また、住居の近くにいくつもあるゴルフコースで、住民割引の13ドルでラウ

ンドを楽しんだ。李さん達は、昼夜を問わずタイムシェアで実験が昼夜行えるように、大学のそばのアパートに居を構えた。一段落したあと、自動車を購入し、保険をかけ、私はカンサス州の試験場で、李さん夫妻はミズーリ州の試験場で免許証をとった。李さん達は、すぐに化学科の大半を占める中国人大学院生達との交流を持ち、研究に関しては勿論、大学事情、買い物、町の行事や危険地帯などの情報を得て、研究協力をスムーズに進め、またカンサス生活をエンジョイしていた。TAあるいはRAで月額1000ドル位の奨学金を得て、定時には大学を後にし、家族との団欒を楽しむ大学院生や教授生活などが、羨ましかったようだ。

3月下旬には、ニューオーリンズで開催された米国化学会の年會に、Jeanグループ共々出向き、Jean教授や中西寛博士 (S59 D修了) の指導教官であったマーケット大学のSchraeder教授が主宰した陽電子化学のシンポジウムに参加した。新婚旅行を兼ねて参加した平田浩一博士 (H17、先端学際D修了) も含めて、昼はセッションで最新の結果を議論しあい、夜はジャズの鳴り響く繁華街のレストランでのシンポジウムディナーで、英語、中国語、日本語を飛び交わせながら旧交を温めた。帰路はオーランドを経由し、ケネディスペースセンターを見学し、その壮大な現場で雰囲気味わった。

4月上旬には、ポスドクでマーケット大学に行ったあと、米国暮らしを続けて

いる中西寛博士が1週間UMKCを訪れ、講演会を行った。6月上旬には、ワインで有名なハンガリーのトカイ近くのリラフュレドで開催された陽電子化学の国際会議に参加するため、ビザが取れなかった李さんを除く4人が大西洋を渡った。小林慶規博士 (S56 D修了) や、東京大学とブダペストを互に行き来して交流しているVeres教授 (エートベース・ロランド大学) のグループも参加された。エクスカーションではハンガリーの美味しいワインを心ゆくまで堪能した。

6月中旬には、在米中の田中正俊氏 (H3 M修了、東芝)、吉田和弘氏 (S58 B卒、三洋電機)、伊藤賢志君らとボストンに集まり、ハーバード大学、ボストン美術館、ボストン大学などを見学し、名物のロブスターを味わった。また、日本企業から研究者も数名が滞在していた高分子のゲルで著名な田中豊一教授をUMCの物理教室に訪ね、東京大学の学生時代からのポリマーゲル研究の話がうかがった。UMCのいくつかの施設や機関も見学し、優秀な学生を探すために世界の各地に拠点を設け、10年後を見据えた活動を進めていくことに衝撃を受けた。伊藤君は博士論文を仕上げた後に田中研究室に移ったが、同教授がまもなくテニスのプレイ中に急逝されてしまったのは、真に残念であった。

伊藤君が帰国した7月からは、帰宅する前に得られたデータを日本にファックスした。翌朝、大学に出ると、日本で前日

に得られたデータがファックスされていた。1つのデータ取得に5時間かかる陽電子寿命測定では、24時間体制で実験が進められると、研究の進行が倍化された。もっと早くからこの体制をとっていたらと思ったものだ。

編集後記

本年3月より、親和会の新しいホームページがオープンしています。事務局では人手、技術ともに不足していますので、ここでも多くの方々の無償のご支援をいただいています。あれを載せよう、これも載せたいというアイデアはいろいろとありますが、そういった事情です。次々に更新していくというわけには参りません。また、大学のサーバ内に置いてありますので、そのための制約もいろいろと発生します。まだまだご期待にそえる状態ではないことをどうぞご了承下さい。

ともあれ、印刷物を送ることに比べれば、ただ同然の経費ですから、これに力を入れていけば会員に対するサービスは大きく改善されます。特に地方におられる会員の方々に親和会を身近なものと感じていただくために是非ともホームページを充実させていきたいと考えております。

(記/溝部)